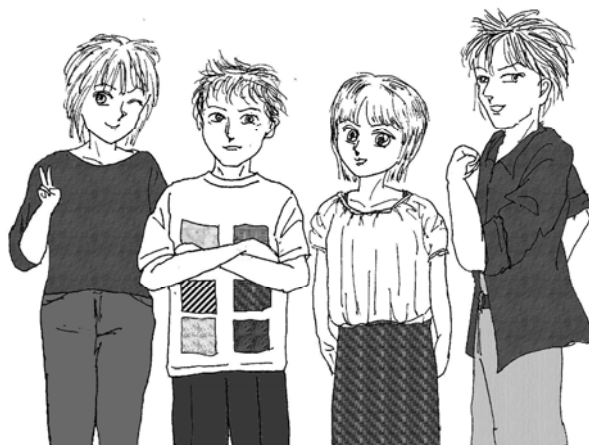


Co-G.E.I.チャレンジ 2010

～「学部生・大学院生による工・芸共同研究」提案募集のお知らせ～
“友達集めて研究支援金をGETしよう！”



主 催：東京工芸大学

締め切り：2010年6月18日（金）

- ・いいアイデアを思いついたので申請したい
- ・書類の具体的な書き方が分からない
- ・支援責任者の先生が見つからない

・・・などありましたら、教育研究支援課までご連絡下さい！

厚木キャンパス：本館1階事務局 tel:046-242-9964 担当：小澤、斎藤、内田
中野キャンパス：本館2階事務局 tel:03-3372-1321 担当：清水
e-mail:er-support@office.t-kougei.ac.jp でも受け付けています

「Co-G.E.I.チャレンジ 2010」とは？

東京工芸大学では、このたび「Co-G.E.I.チャレンジ 2010」を実施することとなりました。

これは、「Cooperative Good Educational Innovation」(協同して取り組む、優れた教育的革新)の頭文字をつなげた造語です。工学部と芸術学部という、特色のある2つの学部の学生が協力して行う優れた活動に対して、今後の大学の発展に寄与することを願って支援する新しい試みです。

学生のみなさんから提出された申請書とプレゼンテーションをもとに学長を委員長とした審査委員会で審査し、支援する活動を決定します。

こうやって説明するとかなり大がかりで大変なことだと思える人も多いかと思いますが、みなさんが日頃行っている活動あるいはぜひやってみたい企画が、今後の東京工芸大学のあり方を変えるきっかけになるかもしれません。みなさんの自由な発想にもとづく提案をお待ちしています。

1. 対象となる活動について

申請の対象となる活動は、次の条件を満たすものです。

- 1) 工学部と芸術学部(大学院を含む)の複数の学生がともに参加していること
※ただし、工学部と芸術学部からなる本学の工・芸融合的特色を生かした活動である場合、1つの学部の学生グループでの応募も可能です
- 2) 学生のみなさんが自主的に行うこと
- 3) 本学の専任教員(1名以上)を指導(支援)責任者とする
- 4) 2010年度(2月末頃まで)に行うこと
※活動が採択された場合、指導(支援)責任者を通じて予算執行を行います
※活動終了後に成果をとりまとめた報告書を提出する必要があります(報告書は大学ホームページで公開予定です)
※東京工芸大学後援会「学生作品発表活動奨励費」「学生と教員との共同活動等への教育・研究助成費」等、大学及び後援会、同窓会が支給する他の補助金との重複採択は行いませんので注意してください

(参考)東京工芸大学「工・芸共同研究」規程

(目的)

第1条 この規程は、東京工芸大学(以下「本学」という。)の専任教員(学生含む)が、本学内の者と共同して行う特色ある研究(以下「共同研究」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規程において共同研究とは、特定の研究課題について学部間等において複数の者が共同で行う研究をいう。

2. 申請手続きについて

別添の申請書に必要事項を記入・押印し、各キャンパス事務部の教育研究支援課に締め切りまでに提出してください。

3. 締め切りについて

2010年6月18日(金)です。

4. 支援形態について

審査の結果採択された活動には、1件につき80万円を上限として、大学から活動費用の支援を行います。

5. 審査方法について

学長を委員長とした審査委員会で審査を行います。6月24日(木)午後プレゼンテーション(後日時間・場所等をお知らせします)を実施し、申請書類とともに審査対象とします。審査は下記の観点から行われます。

※申請件数が多数の場合は、書類審査でプレゼンテーション対象となる提案を絞り込むことがありますので、あらかじめご了承ください

1)学際性	・参画する学部・学科等の特性が、それぞれ生かされているか ・教育研究内容は、いずれかの学部・学科等に著しく偏ることがないか
2)組織性	・特定の学生に偏ることなく、複数の学生の参画が可能か ・地域社会や企業・団体との連携を具体的に展開できる可能性があるか
3)有効性	・これまでの学内教育にない、新たな特徴が認められるか ・学習効果は、何らかの評価手法により確認できるか ・プロジェクトで得られた成果は、広く内外に向けて発信できるか
4)発展性	・学内の新たな教育課程の編成等に向けた可能性があるか ・プロジェクトで得られた成果は、他の授業科目や教育課程に取り入れられるか
5)その他	・実施計画には無理がないか

6. 申請活動の例

申請する活動の例を参考までに挙げておきます(もちろん、これ以外のものでも自由な発想で申請してください)

活動例	内容例
ロボットコンテストへの参加	設計・プログラム開発等を手がけたロボットで、学外のロボットコンテストに参加する。
映像作品の制作・出展	映像作品(実写・アニメーション・インスタレーション等)を企画・制作し、外部コンペに出展する。
美術館・博物館での子ども向けイベント支援	美術館・博物館等で開催する子ども向けイベントの企画に協力し、運営やコンテンツ制作に参画する。
五感を活用した語学教育プロジェクト	リズム・映像にリンクして発音やイントネーション等を効果的に学べる語学教材を開発する。
小・中・高のクラブ活動支援	近隣の小学校・中学校・高等学校等のクラブ活動・部活動について、指導の補助などを継続的に行い、活動を支援する。
商店街活性化への協力	商店街の活性化を図るための企画に協力し、イベント企画・実行や魅力を高めるアイデアの提案等を行う。
地球外生命体探索プロジェクトへの参加	PC演習室のコンピュータを活用し、グリッドコンピューティングによる地球外生命体探索プロジェクトに協力する。

7. 2009年度に採択された活動(参考)

申請活動名	責任者 氏名	責任者所属学科・学年
東京デザイナーズウィーク'09 100%futures 学生作品展 出展	田部井彰基 鈴木 森生	芸術学部デザイン学科3年 大学院工学研究科建築学専攻1年
学展委員会	月見 天一	芸術学部メディアアート表現学科3年
ロボコンでの優勝を目指した自律型ロボットの製作	堀田 拓希	工学部システム電子情報学科4年
入出力一体型デバイスを用いたアプリケーションの開発	小澤 太一	芸術学部メディアアート表現学科3年
「57歳」制作委員会	前田 晃良	芸術学部映像学科3年
fabo DIY コミュニケーション	関 清仁	芸術学部メディアアート表現学科4年

※所属学科・学年は採択当時のものです